

平成二十二年度夏の企画展「絵で見る江戸の夏」の報告

平成二十二年七月二十日（火）～九月十七日（金）、当館一階の展示施設の一部（近代美術館側）において、平成二十二年度夏の企画展「絵で見る江戸の夏」を開催した。当館に所蔵されている江戸時代に描かれた名所図会や図譜などを使用して、江戸時代の「夏」の再現を試みた。名所図会の部では、江戸や江戸時代における三夏（初夏・仲夏・晩夏）にまつわるさまざまな行事や風物詩、暑い夏における人々の過ごし方などを紹介した。一方、図譜の部では、夏を代表する色とりどりの動植物や昆虫などをパネル化して壁面に展示し、鮮やかな色彩と繊細な絵柄を楽しめる展示になるよう心がけた。期間中は夏休みということもあり、子どもづれや「江戸の夏」に興味をもつ人たちにぎわった。

使用した主な資料

本展示会では、主に、名所図会と図譜を使用した。名所図会とは、各地の名所や特産品を豊富な挿し絵で紹介した本で、現代の旅行ガイドブックのようなものである。一方、図譜とは、動植物の絵に詳細な解説を加えた図鑑のようなものである。名所図会の部では、『撰津名所図会』（一七二〇～一七二九）、『都名所図会』（一七二一～一七二九）、『東都歳事記』（一八四〇～一八四一）、『善光寺道名所図会』（一七四〇～一七四一）、『諸国図会年中行事大成』（一八四〇～一八四一）などを、図譜の部では、『絵本野山草』（一八七〇～一八七二）、『本草図譜』（一八九〇～一八九一）、『虫譜』（三〇四八～三〇四九）、『千虫譜』（一九七〇～一九七一）、『半魚譜』（一九七〇～一九七一）、

『相模灘海魚部』（一九七〇～一九七二）、『華鳥譜』（一九七〇～一九七二）などをそれぞれ使用した。

展示会の内容及び特徴

本展示会は、一昨年度、昨年度とは異なり、他の諸機関からの資料提供は受けずに、すべて当館の所蔵資料で行った。入口を入れて左側には名所図会を配し、江戸や江戸時代の夏を三夏に分けて紹介した。右側には、「夏の生きもの」を展示した。結果、通路を挟んで、左側に江戸の「人々の生活のようす」、右側に「自然」界のようすが対比され、「江戸の夏」を狭い空間内にうまく再現することができた。

本展示会で工夫した四点を以下に挙げる。

切り抜きパネルの作成

展示に臨場感を出すため、縦約二・五メートル、横約八メートルの大壁面に、夏にまつわる動植物や昆虫の大小のパネルを所狭しに並べて貼った。さらに、平台の展示用ケースに、動植物や昆虫の小さめのパネルも作成した。これらのパネルは、展示におけるストーリー展開に豊かな表現力を添えた。

キャプション

本展示会では、展示を目から楽しんでいただくことを目指した。そのため、煩雑なキャプションは極力少なくし、詳細な解説は「しおり」にて対応することとした。また、キャプションの文字は大きくし、読みづらい漢

字に振り仮名をつけた。さらに、展示のメインとなる資料については、クイズ形式のキャプションを設けるなどした。全体的にバランスの取れたメリハリのあるキャプション構成となるよう努めた。

しおり

キャプションによる資料解説を最小限のものとしたため、しおりの内容充実を力を入れた。「子ども用」と「大人用」の二種類を作成した。

子ども用のしおりは、「歴史公文書探究サイト『ぶん蔵』」（以下、「ぶん蔵」）のキャラクターを使用し、会話やクイズ形式を導入することで親しみやすく楽しい内容にした。巻末には、「もじよじよの夏の鳥図鑑」や「感想文シート」などを付した。「ぶん蔵」の宣伝も行った。

大人用のしおりでは、キャプション同様、読みやすくするために、フォントを大きくし、行間を広げにとり、読みにくい字には振り仮名を付した。「出品目録」や「山王祭と天王祭のルート図」などを巻末に付したため分量は多くなったものの充実したものとなった。大人用のしおりは一三七五部、子ども用のしおりは一三四〇部を印刷発行した。

「ぶん蔵」コンテンツへの利用

夏の企画展示に連動して、「ぶん蔵」にも新しいカテゴリを作成し、一五件のタイアップ記事を掲載した。使用した画像のほとんどは、スペースの問題などで今回展示を見合わせた資料である。そのため、既に企画展を訪れた人でも楽しめる内容となった。

入場者数及びアンケート結果

本展示会の来場者数は、昨年を大きく上回り、三二二八人を記録した。また、本年度はアンケートを実施した。回答者数は、一三七人であった。アンケートの主な結果であるが、七〇%以上の方に「満足した」、「とても

満足した」とお答えいただいた。年齢層は五十、六十代以上が大半を占め、小・中学生はわずかであった。来場者の住まいは、東京二三区や首都圏近郊が多かったが、北は北海道、南は沖縄まで全国各地に広がっていた。さらに、来場者からは、「旧暦を使用していた江戸時代の夏が現在の夏とずれていたことをはじめ知った」、「そこから来る『真夏』の感覚の違いに驚いた」、「人々が暑い夏を楽しみながら過ごしているように勝手に感銘を受けた」などさまざまな感想をいただいた。「しおり」についても好評をいただけた。一方で、特にリーフレット・ポスター等の宣伝を見て来場してくださった方からは、「小規模な展示スペースにびっくりした」、「見応えがなかった」、「原本展示が少ない」などの意見も寄せられた。

展示を終えて 今後の課題

本展示は、小・中学生をターゲットにしているのにもかかわらず、実際に訪れるのは五十代・六十代の方が多い。昨年度にくらべれば、小・中学生の来館は増えたように思われるが、来場者全体から見るとまだまだ少ない。認知度を高め、足を運んでもらうための宣伝をしながら、両年齢層の獲得をどのように進めて行くかが今後の大きな課題であるように思われる。また、「ぶん蔵」を見てきてくださる人をどのように増やしていくかも課題の一つである。